

| | | | |
|-----|-------|----------|------------|
| 東京 | 都道府県 | 国立・公立・私立 | (フリガナ) |
| 学校名 | T 小学校 | | 担当者氏名 K 先生 |

◆活用内容(学年・単元、ねらい、実践の様子など)

1. 実施学年・事前の準備等

小学1年生で、活用した。本校は、1年生より、少人数に分かれ、算数を行っている。1年生は、38名の1クラスである。19人ずつの2クラスに分けて(習熟度別ではなく、機械的に2クラスに分けている。)、学習している。

百玉そろばんを一人1個ずつ用意した。また、教師用の百玉そろばんを一教室に1個ずつ、用意した。そして、百玉そろばんは、学習室(少人数で学習する教室)の後ろの棚の中に置いておいた。

2. 百玉そろばんの導入

6月に百玉そろばんが届き、「あわせていくつ ふえるといくつ」の学習より、百玉そろばんを使用した。

授業の最初に、後ろの棚の中から、一人1個ずつ、百玉そろばんを取りに行かせた。

最初に、百玉そろばんの置き方を指導した。机の上には、百玉そろばんだけを出させた。そして、百玉そろばんを教師と同じように立たせて、玉が全部校庭側になるように置かせた。(黄色い玉が全員同じ方向になっているのを確認した。)

次に、「これは、百玉そろばんと言います。玉が100個あるので、百玉そろばんと言うのです。玉をはじいて、数を数えたり、計算をしたりします。」と説明した。

また、大切に扱わないと壊れてしまうので、遊んだり、落としたりしないこと、勝手にやらないことなどの注意を話した。

そして、教師の百玉そろばんを使って、教師が「1, 2, 3, … 10」と玉をはじいてやってみせた。その後、子どもたちにも同じように「1, 2, 3, … 10」と玉をはじかせた。その後、次のようなことを行わせた。

- ①. 「10, 9, 8 … 1」と逆に減らしていく。
- ②. 「2, 4, 6 … 10」と2とびで数を入れていく。
- ③. 「3, 6, 9」と3とび、「5, 10」と5とびで数を入れていく。
- ④. 「1+1」「2+1」「3+1」…「9+1」と「+1」のたし算を行う。

最初の日は、ここまで15分で行った。翌日は、「+2」、「+3」の計算などを行った。また、教科書のたし算の練習問題を行った後、百玉そろばんを使って、確かめさせるなども行った。

3. 「のこりはいくつ ちがいはいくつ」での実践

ひき算の学習の第5時「ちがいはいくつ」の学習を行った。ねらいは、「求差の場合について、減法の意味を理解する。」である。

まず、教科書の問題を教師が読み、その後、子どもたちに音読させた。問題は、次の通りである。

「あおいはなと あかいはなでは、どちらがおおいでしょうか。」

T；青い花は、何個ありますか？ C；8個です。

T；赤い花は、何個ありますか？ C；5個です。

T；青い花と、赤い花はどちらが多いですか？ C；青い花です。

ここまででは、全員が理解できた。次に百玉そろばんを一人1個用意させた。

百玉そろばんの一番上には、青い花の「8」を入れさせた。

百玉そろばんの二番目には、赤い花の「5」を入れさせた。

そうすると、どちらが何個多いか一目で分かった。つまり、上の青い花が「3個」多いのである。

そして、この場合、「 $8 - 5 = 3$ 」になるということを押さえた。

次に、教科書に掲載されている問題を同様に行った。

◆実践ポイント

百玉そろばんを使うことで、ひき算の理解を確実にすることができた。

上と下に2つの物の数をならべることで、どちらが多いかがぱっと分かるとともに、何個多いかがすぐに分かることができた。ブロックやおはじきでは、2つの物の数をきちんと並べることは難しい。ずれてしまうことが多い。しかし、百玉そろばんは、2つの物を上と下にきちんと並べるができる。子どもたちにどちらがいくつ多いかを理解させるのにとってもよい教具である。

◆成果(児童の反応、期待など)

子どもたちは、一人一人が百玉そろばんを使って、学習することができ、とても楽しかったと話をしてくれた。また、ひき算の学習で百玉そろばんを使うことでとてもよく分かったと話をしてくれた。その後、ひき算がうまく計算できない子には、百玉そろばんを使って、計算をさせた。すると、ひき算がうまくできない子は、百玉そろばんを使うことで、ひき算の意味や計算の仕方をよく理解することができ、「百玉そろばんを使えてよかった」と話をしていた。

★その他(改善点、気付いたことなど)

1年生にとって、とても使いやすい大きさ、形であった。今後、1年生の繰り上がり、繰り下がりのある計算や2年生でのかけ算でうまく活用していきたい。